

病棟の看護と

緩和ケアチームの看護師の役割

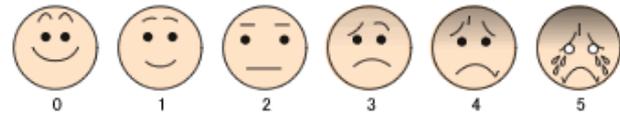
広島市立広島市民病院緩和ケアチ - ム

緩和ケア認定看護師 橋本 寿子

病棟での看護1

➤ 疼痛緩和

- ・薬剤の確実な投与と管理を行い、フェイススケールを用いて評価を行った

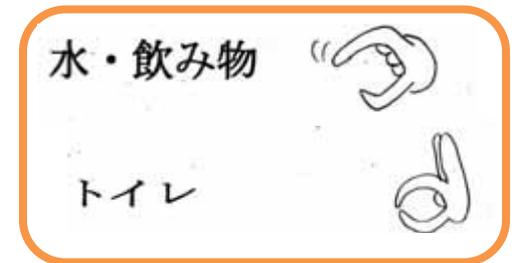


➤ 気管切開術後の呼吸管理

- ・吸引、吸入を行うことで気道狭窄や窒息の予防に努めた
- ・「呼吸の仕方に違和感がある」と苛立って筆談をされる患者さまに対して、気管口に手を当て呼気を感じていただいた
- ・有効な排痰を促すために、呼吸介助を行った

➤ 非言語的コミュニケーションの工夫

- ・気管切開により、発声ができなくなったため、イラストを用いたパンフレットを作成し共有した



➤ セルフケアへの援助

- ・「口から食べたい」「トイレに行きたい」という患者さまの希望に対し、誤嚥に注意しながら食べやすい食事を提供し、転倒しないように歩行の介助を行った

病棟での看護2

➤ 傾聴



手術したのに、なぜ昨日と同じ痛みなんだ？

もっと早く治療はできなかったのか？
どうしてこんなことに…

痛い痛い聞いて聞くな！
答えるのも辛い

こんなに聞きわけの悪い人
ではなかったのに…

まさかこんなことになるなんて…

患者さま：痛みが緩和されないことに対する怒りや、声が出ないことで思いが十分に伝えられないという苛立ち
妻：涙を流して、信じられない気持ちを話される

時間をかけて、ゆっくりと話を傾聴した



病棟での看護3

医師とのカンファレンス

- 治療方針の確認や患者さまとご家族への対応について話し合った

患者さまの
「なぜ？なぜ？」という
言葉に対して

- 医療者としては患者さまへ詳しい病状説明が必要であると考えていたが、ご家族には「本人へどこまで説明をしたらいいのか」という迷いがあったため、がん相談室でアドバイスを受けていただいた

チーム内で情報を共有
して、統一したケアを
提供する

- 受け持ち看護師が中心となって、患者さまの全身状態や治療経過、インフォ・ムド Consent の内容、決定したケアについての資料を作成し、誰が見ても分かりやすく・誰から質問があっても答えられるように工夫した
- 患者さまとご家族の価値観や意思を尊重するため、時間をかけて関わっていることをきちんと看護記録に残した

情報共有のために作成した資料

The image displays a collection of overlapping Japanese documents, including:

- Spreadsheets:** Multiple tables with columns for dates, names, and numerical data. One prominent table has columns for '日付' (Date), '時間' (Time), and '内容' (Content).
- Forms and Reports:** Documents with headers like '2006/02/17(月) 10:21' and '2006/02/26(月) 19:55'. Some contain sections for '目的' (Purpose) and '内容' (Content).
- Handwritten Notes:** Several sheets with handwritten text in black ink, including names like 'パナソニック' and 'カネカ', and dates like '3/0', '3/1', '3/2'.
- Tables with Headers:** A table with the header '2006/04/28(火) 13:22' and columns for '日付', '時間', '内容', and '担当者' (Person in Charge).
- Text Documents:** Various pages of text, some with bolded words and bullet points, appearing to be internal communications or reports.

Overlaid on these documents are several vertical text labels in Japanese:

- トイレ (Toilet)
- 薬 (Medicine)
- 睡眠 (Sleep)
- 水・飲 (Water/Drink)
- 吸引 (Suction)

On the right side, there are several vertical text boxes containing Japanese text, some of which appear to be instructions or notes related to the documents.

緩和ケアチームの看護師の介入

- 今、すぐに対応しなければならないことを明確にする

疼痛緩和

麻酔科医師によりPCA (Patient control analgesia: 患者自己管理鎮痛法) 導入開始

精神的支援

精神科医師により、患者さまとご家族への介入開始

**担当医と病棟看護師に
対する支援**

治療を受けたい、という患者さまとご家族の希望に対して放射線療法を提案し、緩和ケアチームは継続してサポートをすることを伝える

看護の展開

➤ 疼痛緩和

- ・患者さま 「少しは良いような感じ。頭洗ってもらう」「このままいけばいい」
- ・妻 「よく眠っていました。寝ているときは楽そうで、ほっとします」



患者さまは、ケアへの関心が持てるようになった
患者さまの夜間の睡眠時間が確保でき、家族の安楽にもつながった

➤ 精神科医師による看護師へのサポート

看護師「どのように関わって
いったらよいか分からない」

精神科医師

「患者さまとご家族が現状を受容
できないことを肯定的に受け止め、
スタッフ間で気持ちを共有できる
ようにしていきましょう」

患者さまの苦痛が緩和されている時間を
細かく観察し、ご家族と共に清潔ケアをすることで・・・

- ・娘「父さん、良かったね。母さんにこういうことをしてもらうの初めてだよね」
- ・妻「主人からしてもらうことばかりだったので、してあげられることがあって良かった」



患者さまは、穏やかな表情で家族と看護師からのケアを受けることができた
ご家族は、父・夫のために役に立つことができていると感じることができた

➤ 緩和ケアチームの看護師の役割 1

症状マネジメント

- ・患者さまとご家族の問題は何かを医療者と共に考え、どのように介入していく事がQOLの向上につながるかを検討する
- ・患者さまとご家族、医療者の間で一致した短期目標を立て、ケアを展開する **疼痛緩和の第一目標は、痛みなく夜間睡眠できること！**
- ・疾患と特徴、痛みの原因と種類、疼痛緩和のためのケアについて考え、ケアの実践と評価を行う

病状の進行により、疼痛緩和が追いつかないとき病棟看護師は「痛みのコントロールはこれでいいのだろうか」と悩んだ

今後の課題

緩和ケアチームの看護師は、症状マネジメントに対する病棟看護師のサポートニーズを把握して、いつ・誰が・誰に・どのような方法で看護介入していくかを明確にする必要がある

➤ 緩和ケアチームの看護師の役割 2

担当医と病棟看護師へのサポート

- ・緩和ケアチームの看護師は、病棟看護チームが医師や他職種と協働できているか、問題解決能力やお互いを支え合う力はどうかなどをアセスメントする
- ・チームの力を引き出して強めていくために、カンファレンスを通じて「できていること」を言語化し、医療者へ伝えるという役割を十分に発揮していく

➤ 今後の課題

緩和ケアチームの看護師は、病棟看護師が新しい正確な知識を持って、それを言葉で表現でき、他職種と相談しながらケアを継続していけるようにサポートをする

➤ 緩和ケアチームの看護師の役割 3

病棟看護師のストレスマネジメント

- ・患者さまとご家族の怒りや強い悲嘆に傾聴・共感しながら寄り添い、向き合っている病棟看護師が不安や迷いなどの感情を表出でき、日々の看護に疲弊しないようにサポートを行う
- ・スタッフ間で気持ちが共有できるように働きかける

- ・病室へ入る前に深呼吸をし、気持ちを落ち着かせてベッドサイドへ向かった
- ・「どのようにかかわったらよいのか」「まだ、何かできることはないか」「誰に相談すべきか」と悩んだ

➤ 今後の課題

緩和ケアチームの看護師は、病棟看護師が患者さまとご家族の心理変化への対応、スピリチュアルな問題に対して、ケアの質を高めていけるように援助していくことが今後の課題である